

平成２９年度図書館事業評価結果について

河内長野市立図書館（図書館）では、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成２４年１２月１９日文部科学省告示）に基づき、図書館サービスその他図書館運営の維持・向上を図るため平成２６年度から図書館事業評価を行っています。平成２８年度の図書館事業評価結果について、取りまとめましたので公表します。

図書館は、平成２６年２月１５日付け河内長野市図書館協議会（図書館協議会）の答申を受け「河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針」（基本的運営方針）を平成２６年３月３１日付けで決めました。平成２６年度から基本的運営方針に基づき図書館サービスその他図書館の運営に関する指標を選定、指標に係る目標を設定するとともに、年度毎に事業計画を策定し、目標及び事業計画の達成状況等に関し自己点検及び評価を実施、その結果を「河内長野市立図書館事業評価」として公表します。

１．点検及び評価の目的

- ・ 基本的運営方針に基づいた運営がなされていることを確保し、事業水準の維持・向上を図ります。
- ・ 点検及び評価は各年度の事業計画に対し実施します。
- ・ 点検及び評価実施結果は速やかに公表します。

２．評価の方法等

基本的運営方針に基づき策定した事業計画の達成状況を指標並びに指標に係る目標等により３段階の評価基準で点検・評価を実施します。また、図書館協議会に達成状況等評価（総評）を得ます。

実績は１月末現在の数値に３月末までの推計を含めて算出します。

- ・ 評価基準（端数切捨て）
A…達成した（９０％以上） B…ほぼ達成した（８９％～６１％）
C…達成できなかった（６０％以下）

河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針

図書館法に基づき、誰もが気軽に安心して利用できる市民生活に役立つ図書館をめざして、市民の皆さんとともに積極的な図書館運営を進めるため、河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針をつぎのとおり定めます。

- ・ 図書館機能の充実を目的に児童サービスやレファレンスサービスを始めとする各種サービスの向上を図ります。
- ・ 「読書のまち河内長野」実現を目的に図書館や公民館図書室の資料を整備充実し、その利用を促進します。
- ・ 郷土歴史資料や行政資料の収集保存を進め、その普及啓発と活用を図ります。
- ・ 読書活動を推進し、子どもたちや市民の読書習慣の定着化を図ります。
- ・ 図書館を利用することで市民自らの課題が解決できるよう、図書館資料の活用を促進します。
- ・ 市民の協力を得てより良い図書館サービスを提供するため、ボランティア活動の機会、場所の提供やボランティア講座の実施に努めます。
- ・ 図書館司書及びその他の職員の資質・能力の向上を図るため、継続的・計画的な研修の実施等に努めます。
- ・ 安全で安心な図書館の読書環境を維持します。

平成26年3月31日
河内長野市立図書館

平成29年度河内長野市立図書館事業評価結果

1. 実績、自己評価、自己評価説明（点検）

- ① 市民の資料要求に応え、さらにその要求を広め高めて行くため、良質な資料を収集・提供します。

指標…図書館利用者数、一人当たり貸出冊数、大活字本、録音図書

目標…図書館利用者数 621千人

一人当たり貸出冊数 10.0冊

大活字本 前年2,428冊を20冊更新

録音図書 前年1,075タイトルを15タイトル更新

実績…図書館利用者数 632,280人

一人当たり貸出冊数 9.8冊

大活字本 前年2,428冊を30冊更新

録音図書 前年1,075タイトルを70タイトル更新

◎自己評価 各指標ともA

【自己評価説明（点検）】

図書館利用者数は目標を達成（101％）していることから自己評価をAとしました。

従来からの本市市役所、市内3駅に加え、10月に新たに南海美加の台駅構内や道の駅奥河内くろまろの郷にも返却ポストを設置。図書館入館者数は減少しているものの、自動車文庫は増加していることから、高齢化で近くのサービスポイントの利用が進んでいることがうかがえます。

今後とも、図書館に多数来館していただけるよう魅力ある良質な資料構成を目指して、資料の更新と充実を進めていきます。

一人当たり貸出冊数は、目標を達成（98％）していることから自己評価をAとしました。図書館内に新たに自動貸出機を2台、6月から設置しました。有効に活用した結果、図書館内の貸出の2割を支えています。しかし、入館者の減少に伴い貸出も減少傾向にあります。図書館、公民館図書室、自動車文庫のみならず、今後はさらにボランティア団体等とともに読書振興をすすめ、貸出冊数も増やしていきます。

大活字本は、目標を達成（150％）していることから自己評価をAとしました。このほか長寿ふれあい基金にて、高齢者向け紙芝居3点と高齢者向けレクリエーション資料を92点購入し、点字録音図書コーナー内にいきいき健康コーナーを充実させました。これらの新たな資料が活用されるようPRや、高齢者施設などへの団体貸出しをすすめていきます。平成27年度から毎年希望される団体を募集しパック貸出し（H27年度2団体、H28年度2団体、H29年度3団体）年6回入替、20冊～50冊。

録音図書は、目標を達成（100％）していることから自己評価をAとしました。70タイトルのうち、22タイトル（CD10タイトル、デジタイズ12タイトル）を

長寿ふれあい基金から充当しました。これらの新たな資料が活用されるよう PR や、高齢者施設などへの団体貸出しをすすめていきます。

- ② 地域文庫、幼稚園・保育所及び放課後児童会等への団体貸出の利用を促進するため、資料集配送を継続実施します。

指標…配送件数、配送冊数

目標…配送件数 170件

配送冊数 8,000冊

実績…配送件数 275件

配送冊数 13,256冊

◎自己評価 各指標ともA

【自己評価説明（点検）】

配送件数については161%、配送冊数については165%目標を達成していることから自己評価をAとしました。

増加の要因としては、放課後児童会への配送件数の増加によって冊数が増加したと考えられます。今後は、子どもたちの読書環境が整えられるよう特に小学校・中学校への配送数が増加するように学校、学校図書館司書との連携をより強化する必要があります。

- ③ 市民の身近な施設としてのサービス機能の充実を図るため、自動貸出機を導入するなど利便性の向上に努めます。

指標…自動貸出機の導入、図書館年度間開館日数、

図書館年度間開館時間数（年度合計）

目標…自動貸出機の導入（平成29年6月13日）

図書館年度間開館日数 330日

図書館年度間開館時間数 3,465時間

実績…自動貸出機の導入（平成29年6月13日）

図書館年度間開館日数 330日

図書館年度間開館時間数 3,465時間

◎自己評価 各指標ともA

【自己評価説明（点検）】

各指標とも目標を100%達成していることから自己評価をAとしました。

自動貸出機の利用状況は、利用人数31,285人、貸出冊数131,106冊で図書館での貸出冊数のうち22%を占めました。（1月末現在）

年始特別開館については、平成23～28年度まで実施し終了しました。

また、蔵書点検期間を平成26年度以降は10日間から8日間とし開館日を2日間拡大しています。

- ④ メールマガジンの発信やレファレンスデータベースの公開などITを活用した図書館サービス機能の充実をすすめます。

指標…レファレンスデータベースの公開件数、オンラインデータベース利用者数、
W I - F I 利用登録者数

国立国会図書館が提供する歴史的音源や電子書籍を利用できるようインター
ネット環境を整備

目標…レファレンスデータベースの公開 前年度末58件を12件増

オンラインデータベース利用者数 300名

W I - F I 利用登録者数 累計740人

国立国会図書館が提供する歴史的音源や電子書籍を利用できるようインター
ネット環境を整備

実績…レファレンスデータベースの公開 前年度末58件を12件増

オンラインデータベース利用者数 340名

W I - F I 利用登録者数 累計689人

国立国会図書館が提供する歴史的音源や電子書籍を利用できるようインター
ネット環境を整備

◎自己評価 各指標ともA

【自己評価説明（点検）】

レファレンスデータベースの公開は、目標の100%を達成していることから自己
評価をAとしました。今後もレファレンスデータベースの公開事例を積み上げるこ
とによって、利用者の利便性の向上に努めます。

オンラインデータベース利用者数は、目標の113%を達成していることから自己
評価をAとしました。新聞記事の閲覧が増えるなど利用者層の広がりは見られており、
今後ともレファレンスなどの機会をとらえて、より活用されるようPRを行います。

W I - F I 利用登録者数は、目標の93%を達成していることから自己評価をAと
しました。

国立国会図書館が提供する歴史的音源や電子書籍を利用できるようインターネッ
ト環境を整備については、目標の100%を達成していることから自己評価をAとし
ました。平成29年6月から歴史的音源を、平成30年2月からデジタル化資料送信
サービスの提供を始め、今後も利用の促進に努めます。

⑤ 市内全域への図書館サービス提供のため、図書館、公民館や自動車文庫等の全体の
蔵書構成を考えた資料収集を行います。

指標…図書館と公民館との相互貸借冊数

公民館図書室、自動車文庫の蔵書整備

リサイクル本をコミュニティセンター等へ配備

目標…図書館と公民館との相互貸借冊数45,000冊

公民館図書室の蔵書整備 前年61,720冊を1,100冊更新

自動車文庫の蔵書整備 前年18,403冊を500冊更新

リサイクル本をコミュニティセンター等へ配備（4箇所から1箇所増）

実績…図書館と公民館との相互貸借冊数44,684冊

公民館図書室の蔵書整備 前年61,720冊を1,000冊更新

自動車文庫の蔵書整備 前年 18,403 冊を 450 冊更新
リサイクル本をコミュニティセンター等へ配備（4 箇所から 1 箇所増）

◎自己評価 各指標とも A

【自己評価説明（点検）】

図書館と公民館との相互貸借冊数は、目標を達成（99%）していることから自己評価を A としました。予約資料の受取館を図書館から最寄りの公民館図書室に替えられる方が増え、図書館ネットワークの利便性が市民へ浸透してきています。

公民館図書室の蔵書整備は、目標を達成（90%）していることから自己評価を A としました。今後とも魅力ある公民館図書室の蔵書を整備し、図書館ネットワークの利便性を高めていきます。

自動車文庫の蔵書整備は、目標を達成（90%）していることから自己評価を A としました。今後とも魅力ある自動車文庫の蔵書を整備し、図書館ネットワークの利便性を高めていきます。

リサイクル本をコミュニティセンター等へ配備については、目標を達成（100%）していることから自己評価を A としました。平成 30 年 1 月に寺元記念病院に新たに設置。これにより、小山田・日野・清見台の 3 つのコミュニティセンターと公園緑化協会施設と合わせて 5 カ所となりました。地域での読書の振興や交流支援のため、身近な図書コーナーを継続設置し、年 1 回設置資料の更新を行なっています。

⑥ 郷土歴史資料の普及啓発と活用を図るため、関連講座及び資料の展示を行うとともに保存修復を行います。

指標…開催講座数、講座関連資料の展示、保存修復、講座での出前貸出

目標…開催講座数 5 講座

（古文書初歩 1（3 コマ）、古文書入門 1（3 コマ）、歴史 2、中高生対象 1）

講座関連資料の展示 4 回

保存修復 18 点

講座での出前貸出 9 回

実績…開催講座数 5 講座

（古文書初歩 1（3 コマ）、古文書入門 1（3 コマ）、歴史 2、中高生対象 1）

講座関連資料の展示 4 回

保存修復 18 点

講座での出前貸出 11 回

◎自己評価 各指標とも A

【自己評価説明（点検）】

講座数については、目標をほぼ達成（83%）していることから自己評価を B、展示回数については、目標を達成（100%）していることから自己評価を A としました。郷土歴史資料の普及啓発と活用を図るため古文書講座（初歩の初歩 3 コマ・入門編 3 コマ）各 1 講座、図書館歴史講座 2 講座（計 2 コマ）、中高生のための考古学・古文書入門（1 コマ）を開催。各講座の満足度は 80% 以上でした。

関係資料として「銀札」「狭山藩北条氏からの公方様への献上品」「封納のある古文

書」「新田開発と寺ヶ池」を展示しました。

保存修復は、目標を達成（１００％）していることから自己評価をＡとしました。
修復後の資料は、図書館内に展示し、郷土歴史資料の普及啓発と活用を図っていきます。

講座での出前貸出は、目標を達成（１２２％）していることから自己評価をＡとしました。図書館資料の活用として、他課主催の講座会場での出前貸出（１４冊）を実施しました。

- ⑦ 生涯学習機会の拡大のため、他の公立図書館等との連携を一層図り、広域相互利用を実施します。

指標…対象自治体数

目標…対象自治体数 １４自治体

実績…対象自治体数 １４自治体

◎自己評価 Ａ

【自己評価説明（点検）】

対象自治体数は、目標を達成（１００％）していることから自己評価をＡとしました。市民の生涯学習機会を拡大するため今後とも広域相互利用を実施します。（１４自治体：大阪市、東大阪市、八尾市、松原市、柏原市、羽曳野市、藤井寺市、富田林市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村、橋本市、五條市）

また、広域相互利用を締結している富田林市、大阪狭山市の市立図書館とともに「三市図書館連携講座」を開催し、南河内の地理や文学を広く知る学習機会を提供しました。（大阪狭山市での講座は台風のため中止）

- ⑧ 「河内長野市第３次子ども読書活動推進計画」（平成２８年度～平成３２年度）に基づき関係機関との連携を図りながら子どもの読書活動を推進します。

指標…１８歳以下登録者率、ブックリストの作成・配布

小学生向けパスファインダー（情報の調べ方ガイド）作成

中・高校生向けパスファインダー作成

目標…１８歳以下登録者率 ４０％

ブックリストを毎月発行、市内小・中・高等学校や８公民館へ配布

小学生向けパスファインダー ３テーマ作成

中・高校生向けパスファインダー １テーマ作成

実績…１８歳以下登録者率 ４２．９％

ブックリストを毎月発行、市内小・中・高等学校や８公民館へ配布

小学生向けパスファインダー ３テーマ作成

中・高校生向けパスファインダー １テーマ作成

◎自己評価 各指標ともＡ

【自己評価説明（点検）】

１８歳以下登録者率は、目標を達成（１０７％）していることから自己評価をＡとしました。４か月児健診での「ようこそえほんといっしょ」の事業で出前登録・貸出

し（登録者数76人、貸出冊数147冊（1月末現在））を行った。平成29年度から新たに中学1年生の図書室オリエンテーションでの利用者カード登録を1学期中に実施、121人登録（再発行も含む）。

施設見学や小・中学校でのえほんのひろばの際に、児童に図書館の利用や登録のPRを織り交ぜてガイダンスを行った。学校向け「えほんのひろば」巡回の継続実施や学校図書館が実施する「読書ノート」への参画、小学校から公民館施設見学の際に公民館図書室で利用者カードの新規登録実施など子どもの読書活動を促進し、18歳以下の登録者数の維持・向上に取り組みました。

ブックリストを毎月発行、市内小・中・高等学校や8公民館へ配布は、目標を達成（100%）していることから自己評価をAとしました。今後も引き続き、子どもの読書活動を推進するため学校ほか関係機関を連携してブックリストを作成・配布し利用者教育に活用していきます。

小学生向けパスファインダー、中・高校生向けパスファインダーは、目標を達成（100%）していることから自己評価をAとしました。今後も引き続き、対象に応じたパスファインダー（情報の調べ方ガイド）を作成し、利用者教育に活用していきます。

⑨ 子どもたちや市民の読書活動の推進を図るため、地域、学校やボランティア等と連携し、おはなし会などを実施します。

指標…おはなし会等開催回数、おはなし会等参加者数

目標…おはなし会、おはなしウォッチング、クリスマス会、夏休みおはなし会

合計開催回数91回 合計参加者数 760名

実績…おはなし会、おはなしウォッチング、クリスマス会、夏休みおはなし会

合計開催回数91回 合計参加者数 701名

◎自己評価 各指標ともA

【自己評価説明（点検）】

おはなし会、おはなしウォッチング、クリスマス会、夏休みおはなし会について目標を達成（回数100%、参加者数92%）していることから自己評価をAとしました。

ようこそえほんといっしょ事業でのPR、ミニコミ誌や関係機関（あいっく）との連携を通じて参加人数の向上に取り組みました。

おはなし会の参加数は水曜：40回196人（14時30分～ 20回140人、15時30分～20回56人）、土曜：29回154人（第1土曜10回43人、第3土曜10回61人、第4土曜9回50人） ※平成30年1月末実績

おはなし会については子どもの利用実態に応じ、より効果的な実施手法等を検討しながら実施していきます。

⑩ 子どもたちに絵本に親しむ機会を提供するため、学校や放課後児童会などで「えほんのひろば」の巡回展を実施します。

指標…参加者数、うち異年齢交流参加者数

目標…参加者数 4,000人

うち異年齢交流参加者数 1, 000人
実績…参加者数 5, 607人
うち異年齢交流参加者数 2, 075人

◎自己評価 各指標ともA

【自己評価説明（点検）】

「えほんのひろば」について、目標を達成（参加者数140%、異年齢交流参加者数207%）していることから自己評価をAとしました。

市内の小学校13校、中学校2校で実施しました。このほかにも、夏休み子ども教室2017、343人（2回）、美加の台学園祭457人（1回）、大阪暁光高校（ちよだ保育園）90人（1回）、花の文化園120人（1回）、あいつく138人（1回）の異年齢交流で、えほんのひろばを出展しました。

今後とも運営方法やプログラム内容について検討を加えながら、学校関係者の協力を得るなど、より拡大して継続できるよう努めます。

⑪ 図書館資料の利用を促進するため、生活に役立つ図書館講座や児童を対象とした利用者教育講座（資料の探し方等）を開催します。

指標…開催講座数、参加者数

目標…開催講座数 10講座
参加者数 130人
実績…開催講座数 8講座
参加者数 175人

◎自己評価 開催講座数B、参加者数A

【自己評価説明（点検）】

開催講座数は、目標をほぼ達成（講座数80%）していることから自己評価をBとしました。講座参加者数は、目標を達成（参加者数134%）していることから自己評価をAとしました。

- ・ 図書館マスター2講座（小学生3年生～6年生対象）
- ・ 図書館探検ブック配布イベント1日（小学生対象）

※図書館探検ブックは当日配付33冊、夏休み期間中配付合計510冊

- ・ 生活に役立つ図書館講座（老後資金、教育費、創業、英語多読）4講座
- ・ 三市図書館連携事業（河内長野、温泉物語）1講座

今後も図書館資料の利用促進のため、地域や近隣市の図書館と連携を取りながら様々なアプローチの講座を開催します。また、レファレンスの際にデータベース（法情報、新聞記事）を活用することにより、利用者教育にも取り組んでいきます。（平成29年度からデータベース講習会2講座は終了）

⑫ ボランティア活動の充実を支援するため、読み聞かせボランティア講座やスキルアップ講座を実施します。

指標…開催講座数

目標…開催講座数 3講座（9日）

実績…開催講座数

4 講座（12 日）

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

開催講座数は、目標を達成（133%）していることから自己評価をAとしました。

①「すぐに役立つ読み聞かせボランティア講座（5回）」

②「読み聞かせボランティア フォローアップ講座（1回）」

③ボランティアスキルアップ講座「まど・みちおの詩と童謡（3回）」

④「知的障がいの方のための読書支援サポート講座（3回）」

科学研究費助成事業「公共図書館における知的障害者のための合理的配慮のあり方に関する研究」研究委員会との共催

以上4講座（12回）を開催。

新たなボランティア活動者5人（うち団体加入見込み5人）。

図書館と協働して地域や学校での読書推進を担う人材を育成するため、引き続きボランティア活動の充実を支援します。

- ⑬ 市民の理解と協力を得て図書館の良好な読書環境の維持、利用マナーの向上を図ります。

指標…マナー向上キャンペーンの実施

目標…マナー向上キャンペーンの実施回数2回

実績…マナー向上キャンペーンの実施回数2回

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

マナー向上キャンペーンの実施回数は、目標を達成（100%）していることから自己評価をAとしました。資料の水漏れ防止キャンペーン（貸出時に声かけやチラシ配付）を実施しました。

- ⑭ 図書館司書及びその他の職員の資質・能力の向上を図るため、継続的・計画的な研修の実施等に努めます。

・文部科学省主催 地区別研修（近畿）

・近畿公共図書館協議会主催研修

・大阪府教育委員会主催研修（司書セミナー）

指標…研修（館外）数、研修参加者数、利用者の職員対応満足度

目標…研修（館外）数 9 講座

研修参加者数 22 名（延べ）

利用者の職員対応満足度 5 段階で平均4 以上（図書館アンケート）

実績…研修（館外）数 12 講座

研修参加者数 18 名（延べ）

利用者の職員対応満足度 5 段階で平均4 以上（図書館アンケート）

◎自己評価 研修（館外）数 A、研修参加者数 B、利用者の職員対応満足度 A

【自己評価説明（点検）】

目標に対し、研修数は133%達成・自己評価A、参加者数は81%達成・自己評価B、利用者の職員対応満足度では112%を達成・自己評価をAとしました。

司書及びその他の職員の資質・能力の向上を図るため継続的・計画的な研修の実施等に努めます。

- ・文部科学省主催 地区別研修（近畿） 1講座 1人受講
- ・近畿公共図書館協議会主催研修 3講座 3人受講
- ・大阪公共図書館協会主催研修（司書セミナー） 8講座 14人受講

図書館アンケートによる利用者の職員対応満足度は、5段階で平均4.5であり、さらに職員の接遇の向上に努めます。

- ⑮ 危機管理マニュアルの整備、職員に対して防火訓練をはじめAED講習や防犯講習等を実施します。

指標…防火訓練等実施回数

目標…防火訓練等実施回数 5回

実績…防火訓練等実施回数 6回

◎自己評価 A

【自己評価説明（点検）】

防火訓練等実施回数について、目標を達成（120%）していることから自己評価をAとしました。複合施設にあることを踏まえ関係機関との連携を図り利用者の安全安心に努めます。

実施内容 （実施日）

- ・救命講習 7/4
- ・大阪880万人訓練 予行演習 8/1
- ・大阪880万人訓練職員訓練 9/5
- ・防犯講習 11/7
- ・自衛消防訓練 10/9 2/12

2. 図書館協議会による達成状況等評価（総評）

図書館事業に係る図書館の自己評価並びに自己評価説明（点検）を踏まえ実施した達成状況等評価（総評）は以下のとおりです。

平成30年3月31日 河内長野市図書館協議会 会長 佐藤 敏江

記

1. 事業計画に基づき設定した目標を概ね達成している。今後とも事業の適正化、図書館サービスの向上に努められたい。
2. 自己評価において「B」「C」となったものについては、来年度において評価が「A」となるように努めるとともに、目標設定が実現及び持続可能なものであるかを検討し、次年度の目標設定をされたい。また、達成度100%を超えているものについて、よりサービスの向上となるよう目標設定を再考されたい。
3. 設定されている指標及び目標が事業の成果を的確に評価できているものであるか、状況の変化に対応できているかを含めて検討していただきたい。
4. 総評並びに下記に示す各委員からの意見を参考に図書館事業の充実に努められたい。

【図書館協議会委員の意見】

図書館事業に係る図書館協議会委員の意見は次のとおりです。（図書館協議会会議での事業に係る意見の要旨を掲載）

1. . . .（全体）事業評価について、全体を網羅しつつ、例えば今年は特にこの一点を細かく見ていこうと、重点の置き方を変えとか。もうひとつ気を付けないといけないのは、すべてAというのは目標の設定の仕方もあるわけですから、そこのところを気を付けないと調査のための調査、評価のための評価みたいになってしまいますので、課題だなと思われる部分があるなら、そこを細かくピックアップして見ていくというやり方もあるのではないかと思います。
⑦ 他の図書館との広域相互利用については、自治体数ではなくサービスの内容を指標にしてはどうか。
2. . . .（全体）A評価それ自体は素晴らしいのですが、自己評価をするひとつの目的は、課題を見つけるということなんです。もし業務を本当に改善しようと思うならば、どこかに課題があるはずで、このPDCAを回すことでそれが見つかるのであって、そういう点でちょっと大雑把すぎて、これだけではどこに課題があるかというのは見つからないですね。ですから、毎年

少しずつでも前進させるためには、もう少しきめ細かく目標を掲げて、目標を達成するためにはどんな手段があるのかということを考えて、それについてひとつひとつ点検していく。そして課題を見つける。そういう作業を徐々にでもいいので緻密に取り組んでいかないと、これだけ毎年やっても、結構でしたということで終わってしまいますから。PDCAの本来の意義が生きてこないということになると思います。せっかく時間をかけてやるわけですから、課題を見つけるという観点からもう少し工夫していただいたら、本当の意味で一歩ずつでも改善していったら良くなるんじゃないかと思います。

3 . . . (全体) 基本的にはいいと思います。

- ⑦ 自治体の連携は 14 自治体より伸びることはないんですか。何故かという
と連携すること自体が目的ではないような気がするんです。連携すること
によって、一体どんな事業を提供して、それに対してどんな評価になった
のかという方が見えてくるものがあるのではないかと思います。協働して
事業をしたとか、連携をしたことによって、何を目標にしたのかという方
が指標として、よりわかりやすいと思います。
- ⑪と⑭にBがありますが、残念なのは相手方がいるBではなしに、自己のBな
ので何故なのかという疑問です。講座数も研修参加者も、年度当初に
調整できなかったのかなと思います。相手がいると達成するのは難しいこ
ともあると思うので、Bということもあると思うんですけども、自らの
事なのでなぜBになるのか、前回もあったかと思うのですが、そこが気にな
るところです。